

分類	区分	平均正答率			評価
		市	県	全国	
	教科全体	69	69	67.7	
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.7	65.7	64.4	
	情報の扱い方に関する事項	90.8	87.6	86.9	◎
	我が国の言語文化に関する事項	78.4	76.9	74.6	
	話すこと・聞くこと	56.4	60.6	59.8	▼
	書くこと	70	70.4	68.4	
	読むこと	75.1	73.8	70.7	
観点	知識・技能	72	71.2	69.8	
	思考・判断・表現	66.8	68	66	
	主体的に学習取り組む態度				

考察

◎成果	要因・今後に向けて
◎人物像や物語の全体像を想像して読む ◎無解答率が全国・県に比べて低い (特に「書くこと」において)	<ul style="list-style-type: none"> ○うすき読書のまちづくり推進事業「第3次臼杵市子ども読書活動推進計画」に基づく読書活動の推進 ○協育コーディネーター、図書館専門員、担任が連携した「読書センター・学習情報センター」としての機能 ○更なる読解力の醸成 ▼学校図書館の更なる充実、特色ある読書活動の推進(コロナ禍を機に読書離れ・二極化が加速) ・「読むこと」の学習と読書活動の年間指導計画を関連を意識して指導
▼課題	要因・今後の対策等
<ul style="list-style-type: none"> ▼文の中における主語と述語の関係を捉える ▼聞き手の求めていることに応じて、優先順位を考えるなど、集めた材料を分類したり、関連付けしたりして、伝え合う内容を検討する ▼漢字の書き取り 	<ul style="list-style-type: none"> ○主語と述語の関係について、低学年から繰り返し指導することが大切 ・主語と述語が離れて表されている場合 ○思考力・判断力・表現力等を育成するための授業改善 ・聞き手の求めていることに応じて、集めた材料をどのように整理すればよいかを考える ・情報を整理することで、伝えたいことが明確になることを実感させる ○漢字力を定着させるための在り方の見直し

大問	中間	小問	問題の概要	出題の趣旨	平均正答率			評価	備考
					市	県	全国		
1	(1)		学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる	57.2	63.6	62.5	▼	
		①	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる	77.2	75.6	75.9		
			②	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	49.2	53.5	52.9	▼
		(2)	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる	62.8	64.6	63.8	▼	
2	(1)	①	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	77.6	80.2	80.3	▼	
		②	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものと、適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	90.8	87.6	86.9	◎	
	(2)		【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	目的や意図に応じて、事実と感想、意見を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	62.4	60.6	56.6		
		ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(きょうぎ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	45.2	44.1	43.4		無解答7. 2%
			イ		【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す(なげる)	78.8	80	76	
3	(1)		【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	61.6	63.2	62.3	▼	
		①	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる	64.8	67.3	66.9	▼	
			②	【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものと、適切なものを選択する	人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる	76	75.5	72.5	
		(2)	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる	84.4	78.5	72.6	◎	無解答4. 4%
		(3)	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる	78.4	76.9	74.6		

分類	区分	平均正答率			評価
		市	県	全国	
	教科全体	64	63	63.4	
領域	数と計算	69.1	66	66	◎
	図形	67.1	66.8	66.3	
	測定				
	変化と関係	45.7	48.3	51.7	▼
	データの活用	63	61.9	61.8	
観点	知識・技能	73.7	72.5	72.8	
	思考・判断・表現	51.3	50.7	51.4	
	主体的に学習取り組む態度				

考察

◎成果	要因・今後に向けて
◎全体的に高い正答率である。 (特に「数と計算」の領域) ◎数量の関係を、□を用いた式に表す	◎各校で習熟度別指導や複式解消指導加配、少人数指導加配等、算数の授業においてきめ細かな指導体制が構築されている。 ◎低学年から場面を図に表しながら、数量関係を捉え立式する指導を継続
◎成果と▼課題	要因・今後の対策等
▼球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す ▼道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を記述する ▼速さの意味について理解する ▼折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを記述する ▼示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する	◎図形の面積や体積を求める際、情報を自ら選び出すために、図形の意味や性質の理解を深め、図形を構成する要素を見だし、活用する指導 ◎「速さ」及び「割合」の理解を深めるために、2つの数量関係を表に表し、「速さ」及び「割合」が変わらないとき、2つの数量関係は比例の関係にあることを確認する指導 ◎問題場面や図、式を関連付けて、求めた速さの妥当性を検討する指導 ◎問題を解決するために、どのようなデータが必要か考えさせる指導 ◎目的に応じて表やグラフに表し、データの特徴や傾向を捉え、考察させる指導

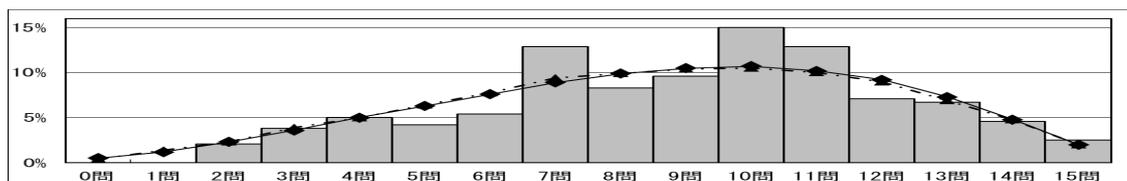
大問	中間	小問	問題の概要	出題の趣旨	平均正答率			評価	備考
					市	県	全国		
1	(1)		問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる	68	63.4	62.1	◎	
	(2)		はじめに持っていた折り紙の枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	数量の関係を、口を用いた式に表すことができるかどうかをみる	92	88.3	88.5	◎	
2	(1)		$350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	62.8	59	56.9	◎	
	(2)		除数が1/10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	71.6	68.1	69.1		
3	(1)		作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる	86	86.1	85.5		
	(2)		円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	71.6	72.4	71.3		
	(3)		直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	34.4	35.2	36.5	▼	無解答4.0%
	(4)		五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く	角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	76.4	73.7	72	◎	
4	(1)		$540 \div 0.6$ を計算する	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	70.8	69.2	70.1		
	(2)		3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる	67.2	67.6	70		
	(3)		家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	21.2	26.9	31	▼	
	(4)		家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	速さの意味について理解しているかどうかをみる	48.8	50.4	54.1	▼	
5	(1)		円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる	82.4	81.3	80.8	◎	
	(2)		示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる	72.4	73.7	73.3		
	(3)		折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	47.6	44.4	44	◎	無解答9.6%
	(4)		示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	49.6	48.3	49.3		

【臼杵市】令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

正答数分布図 横軸は正答数、縦軸は割合（◆：全国 ▲：大分県 □：臼杵市）

【中学校国語】全問 15問 平均正答率60（大分県58、全国58.1）

令和6年度



数値の高いもの	数値の低いもの
<p>○正答率が全国値を上回った設問は15問中12問</p> <p>○そのうち、全国値を5ポイント以上上回った設問は4問</p> <p>①「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる」(話すこと・聞くこと) 68.3%(+5.1)</p> <p>③「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」(言葉の特徴や使いに関する事項) 73.3%(+4.5)</p> <p>④「短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる」(読むこと) 55.8%(+7.5)</p> <p>④「行書の特徴を理解しているかどうかをみる」(我が国の言語文化に関する事項) 83.8%(+8.2)</p>	<p>○正答率が全国値を下回った設問は15問中3問</p> <p>①「意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」(情報の扱いに関する事項) 38.8%(-5.2)</p> <p>②「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる」(読むこと) 37.5%(-5.1)</p> <p>④「表現の技法について理解しているかどうかをみる」(言葉の特徴や使いに関する事項) 53.8%(-1.1)</p> <p>○正答率が全国値を上回ったものの、50%を下回った設問は15問中2問</p> <p>①「話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」(話すこと・聞くこと) 47.9%(+3.2)</p> <p>②「文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる」(読むこと) 37.5%(+1.2)</p>

【成果】

- 臼杵市の平均正答率は60で全国・県平均を上回った(全国58.1、大分県58)。
- 「知識及び技能」の3領域中2領域(1)「言葉の特徴や使いに関する事項」(3)「我が国の言語文化に関する事項」は全国・県平均を上回った。
- 「思考力、判断力、表現力」の3領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」とも全国・県平均を上回った。
- 無解答が少ない(15問中13問が全国より少なく、うち3問は無解答率0%)。
- 低学力層の生徒の割合が全国・県平均より少ない(第1四分位が7.0問 全国・県は6問)。
- 生徒質問調査から、生徒は国語の学習の必要性や有用性を意識していると言える。※1
 - ・「国語の勉強は大切だと思いますか」 98.0%(県 94.9 全国 93.9)
 - ・「国語の授業の内容はよくわかりますか」肯定的回答 84.6%(県 84.6 全国 82.7)
 - ・「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」93.8%(県91.9 全国90.6)

【課題と対策】

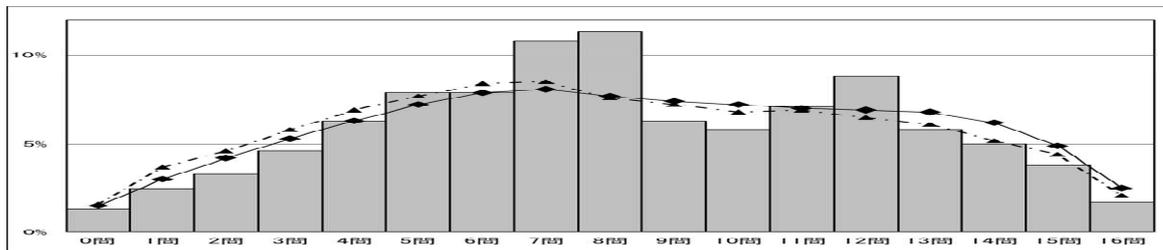
- ①「意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」問いでは、発言の内容を誤って解釈したり、事実と意見、具体例と理由を区別できていなかったりする生徒が60.9%。話す聞く活動の中で、発言の内容を把握し、意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報の関係を的確に捉える学習活動をする必要がある。
- ①④「話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問いでは、提示された2つの条件のどちらかを満たしていない解答が31.7%。また、②④「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる」問いでは、提示された2つの条件のどちらかを満たしていない解答が42.1%。読み取ったことについて共通点や相違点などを少人数で話し合いながら分類する学習活動などが必要であり、そのために、話し合いの話題や展開を捉えた上で、互いの発言を結びつけて考えをまとめさせるなど、段階をおさえた話し合いに慣れさせる必要がある。
- ②「文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる」問いでは、「実際の葉の形」以外の解答を選んだ生徒が13.8%。断片的な情報が互いに補完し合っているのか、解説しているのかなどを読み取る、文章と図の関係をおさえる必要がある。3年生C読むことI「文章を批判的に読みながら文章に表れているものの見方や考え方について考えること」の指導において補充したい。
- ④「表現の技法について理解しているかどうかをみる」問いでは、直喩と倒置を選んだ生徒が37.5%。比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を、俳句や短歌など韻文を鑑賞する学習で復習させたい。
- 生徒質問調査から、国語の教科学習への興味を持たせたり、粘り強く学習する姿勢を身に付けさせたりする指導が必要であることが分かる。※1より、国語の学習の必要性や有用性を意識しているので、「分かって楽しい」教科を目指したい。
 - ・「国語の勉強は好きですか」 肯定的回答 76.1%(県70.2 全国64.3)
 - ・「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」全ての書く問題で最後まで解答を書くよう努力した 75.2%(県 72.3 全国 72.0)
- 生徒質問調査「解答時間は十分でしたか(国語)」によると、26.4%(県 25.5 全国22.5)の生徒が不足を感じている(やや足りなかった+全く足りなかった)ので、文章をはやく読む指導や時間内に解答を書く指導が必要である。
- 臼杵市平均では、正答率が全国平均を超えている問題でも、正答率に学校差がある(③二：最大38.5)。課題が各校で異なるため、各校で自校の問題ごとの分析を行い、課題を明確にして授業改善に生かす必要がある。

【臼杵市】令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

正答数分布図 横軸は正答数、縦軸は割合（◆：全国 ▲：大分県 □：臼杵市）

【中学校数学】全問 16問 平均正答率52（大分県50、全国52.5）

令和6年度



数値の高いもの	数値の低いもの
<p>○正答率が全国値を上回った設問は、16問中9問</p> <p>①「連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す」 38.8% (全国+4.0)</p> <p>②「等式を目的に応じて変形する」 55.4% (全国+2.9)</p> <p>⑦(2)「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」 32.1% (全国+6.9)</p> <p>⑧(3)「グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈する」 78.8% (全国+1.9)</p>	<p>○正答率が全国値を下回った設問は、16問中7問</p> <p>⑤「簡単な場合について、確率を求める」 59.6% (全国-13.5)</p> <p>⑥(3)「統一的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する」 37.5% (全国-4.3)</p> <p>⑦(1)「与えられたデータから最頻値を求める」 67.5% (全国-6.8)</p> <p>⑨(1)「筋道を立てて考え、証明すること」 14.6% (全国-11.2)</p> <p>⑨(2)「事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだす」 22.5% (全国-4.2)</p>
<p>【成果】</p> <p>○「数と式」「関数」で正答率が高い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とくに、「関数」⑧は小問3問すべてにおいて、全国正答率よりも高かった。表・式・グラフを関連付けて授業を行い、問題解決を心がけている成果がでている。 <p>○複数のデータの分布の読み取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・⑦(2) 昨年度は、全国正答率よりも低かったが、箱ひげ図からデータの分布の傾向を比較し説明することができている。 ・日常生活と関連付けたデータの傾向を読み取り、説明する授業を設定することで、事象を数学的に解釈する力が身につけてきている。 <p>○生徒質問 数学の授業で学習したことは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」は、86.1% (県 81.2・全国 78.5) ・「普段の生活の中で活用できないか考えますか」は、62.3% (県 60.7・全国 57.2) 	
<p>【課題と対策】</p> <p>○「図形」領域の正答率が低い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・⑥(3)の問いにおいても、正三角形から正四面体に図形が立体に変化したときの、辺の関係をイメージすることができず数量関係を求めることができていない。 ・⑨(1) 根拠や理由を用いて説明することができていない。三角形の合同の証明をする力はついてきているが、三角形や平行四辺形の基本的な性質を具体的に活用できていない。 ・⑨(2) 図形が変化したときの様子をイメージすることができていない。 ・図形が変化したときの様子をイメージできるように ICT 機器を活用して、視覚化する。 ・定義や定理の意味を正しく理解させ、それを活用するような問題を週末課題や単元テストで扱っていく。 <p>○⑤確率の求め方を理解できていない</p> <p>「確率」は、2年生最後の単元で復習の時間を確保できていないため、樹形図を使って求める方法が定着していない。計画的な単元計画をすることで、どの単元も時間の確保をする必要がある。</p> <p>また、問題文を読み取り、どのような樹形図を作成して考えればよいのかを考える授業を設定する。</p> <p>○各学校で正答率に差がある</p> <p>学校ごとに細やかな分析を行い、授業改善をし、正答率の低い問題に対してのフォローアップを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正答率の高い学校の取組を数学部会全体で共有し、生徒の力を伸ばすための方法について意見交流する。 <p>○生徒質問（問題）</p> <p>「解答時間は、十分でしたか」では、時間が足りなかったと感じている生徒が7割以上を占めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文の情報量が多いと読み取りに時間がかかっていて、必要な情報を読み取るためのポイントなども日頃の授業の中で扱い、情報を読み取り整理する力をつけていく。 	

【 臼 杵 市 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問調査）

1 調査結果の概要

児童質問調査

- タブレットの活用が進んでいる。
- 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている。
- 自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている。
- 学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。
- 国、算、英の愛好度が高く、児童の興味関心を引く授業が展開されている。

生徒質問調査

- タブレットの活用が進んでいる。
- 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている。
- 学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。
- 思考力、判断力を育むことを意識した授業が行われている。
- △自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している生徒が全国平均より少ない。

2 臼杵市の児童・生徒質問調査の調査結果をふまえて

- ・学習環境に関する重点的取組事項
表現力の育成に向け、自分の考えを発表する場面で、相手意識を持たせる。
- ・全校で取り組む学習環境の改善
タブレットの活用が定着しており、生徒もその効果を実感している。全校への電子黒板の導入が完了したため、電子黒板の活用により、一層の効果の高まりが期待できる。
- ・学力と特に相関が強いと考えられる事項についての考察など
個別最適な学び(学習の個性化、指導の個別化)が意識された学習や、既習内容を活かし自分の考えをまとめる活動、まとめや振り返りを意識した授業改善が進んでいる。
児童生徒自らが解決方法や目標を決めるようにしており、問題解決的な学習への転換が図られている。

【 臼 杵 市 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問

- 近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組が充実している。
- 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。
- 外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けている。
- ICT 機器を十分に活用し、サポート体制も整っている。
- △ICT 機器の、家庭での活用や不登校生徒に対する活用について全国平均より低い。
- △教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることについて全国平均より低い。

中学校：学校質問

- 自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行ったり、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行ったりするなど、授業改善が進んでいる。
- ICT 機器を十分に活用し、サポート体制も整っている。
- △英語の授業において、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動が少ない。
- △ICT 機器の、不登校生徒に対する活用については全国平均より低い。

2 臼杵市の学校質問調査の結果をふまえて

・幼小中一体教育

「15の春の自立をめざした系統的な教育」を進めるために、幼小中一体教育が浸透しており、各中学校ブロックでの取組が充実している。さらに互いの教育を共通理解し、教育課程や架け橋期のカリキュラムについて協議する必要がある。

・学校の指導、家庭学習の改善

これまでの環境整備の積み重ねにより、ICT 機器を十分に活用し、サポート体制も整っている。今後は、家庭での活用や不登校生に対する活用について充実させる必要がある。

・チーム学校の推進

学級の問題に対して、組織的に対応し、積極的に専門機関との連携を図る必要がある。

・学校における指導等と学力等との関係についての考察など

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善は進んでいる。個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるよう、授業改善をさらに進めていく。